

世田谷文学館 開館30周年記念コレクション展 世田谷線・100年間のものがたり

2025年10月18日（土）～2026年3月31日（火）

同時開催 ムットーニコレクション

【開館時間】 10：00～18：00（入場とミュージアムショップは17：30まで）

【休館日】 毎週月曜日（月曜が祝休日の場合は開館し、翌平日休館）、年末年始（12月29日～1月3日）

【主催】 世田谷区、公益財団法人せたがや文化財団 世田谷文学館

【後援】 世田谷区教育委員会

【協力】 東急株式会社、東急電鉄株式会社、電車とバスの博物館、世田谷線開通100周年記念事業実行委員会

広報用貸し出し画像

貸出条件

- ◆本展紹介記事をご掲載いただく際は、恐れ入りますが情報確認のため、掲載前に校正紙をお送りください
- ◆画像は展覧会紹介の目的のみにご使用ください
- ◆画像のトリミング、画像に文字を重ねるレイアウトはお控えください
- ◆画像データは、ご使用后必ず消去してください
- ◆画像データを第三者に渡すことを禁じます
- ◆画像にはコピーガードを施してください
- ◆発行後、掲載誌を1部お送りください
- ◆貸し出しご希望の際は webmaster@setabun.net へ、希望画像番号を付してご連絡ください



画像A 山下駅1969年
（写真提供：東急株式会社）

世田谷文学館 開館30周年記念コレクション展

世田谷線・100年間のものがたり

100年分の文学作品でめぐる、世田谷線のちいさな旅。

1925年、玉川電気鉄道（現・東急電鉄）の支線として開通した世田谷線。1969年に渋谷～二子玉川園間の本線が廃線となったことで、世田谷区内だけを走る独立した路線となりました。開業から100年、世田谷線は三軒茶屋～下高井戸間の5.0kmを結ぶ2両編成の路面電車として、今日も世田谷のまちなかを走っています。

世田谷線の沿線にはこれまで多くの作家たちが暮らし、また、多くの文学作品に沿線の風景が描かれてきました。

世田谷線が開通した1925年に、若き日の林芙美子、壺井栄、平林たい子が身を寄せ合うように長屋暮らしを始めた三軒茶屋。川上未映子『黄色い家』でも、三軒茶屋は女性たちの奇妙な共同生活の舞台として登場します。柴崎友香『わたしがいなかった街で』では、日本SFの父とされる海野十三が長く暮らした若林に住む「わたし」が、終戦前後の海野の日記に記された場所を65年の時を経て辿ります。野尻抱影、川上弘美が冬のボロ市の情景を綴った、上町・世田谷。吉田篤弘が20年以上にわたり紡ぎ続ける「月舟町」シリーズのモデル、山下・松原。中原中也、藤野千夜、三浦しをんが活写した、下高井戸駅周辺。たった10駅しかない世田谷線ですが、それぞれのまちにそれぞれの物語が、幾重にも重なりながら息づいています。

本展では、世田谷線開通以降2025年までの100年のあいだ、この沿線で紡がれたたくさんの物語を、作家たちのエピソードも交えながらご紹介します。

【会期】 2025年10月18日（土）～2026年3月31日（火）

【開館時間】 10:00～18:00（入場とミュージアムショップは17:30まで）

【休館日】 毎週月曜日（月曜が祝休日の場合は開館し、翌平日休館）

年末年始（12月29日～1月3日）

【会場】 世田谷文学館 東京都世田谷区南烏山1-10-10 03-5374-9111

<https://www.setabun.or.jp> 京王線「芦花公園駅」南口より徒歩5分

【主催】 世田谷区、公益財団法人せたがや文化財団 世田谷文学館

【後援】 世田谷区教育委員会

【協力】 東急株式会社、東急電鉄株式会社、電車とバスの博物館、

世田谷線開通100周年記念事業実行委員会

【入場料】 一般220(180)円/高校・大学生170(130)円/65歳以上、小・中学生110(90)円
障害者手帳をお持ちの方(ただし、大学生以下は無料)110(90)円

*（ ）内は20名以上の団体利用と「せたがやアーツカード」等の各種割引料金です

*窓口でのお支払は、現金・クレジットカード・せたがやPayのご利用となります

*ほぼ全てのクレジットカードが利用可能ですが、スマートフォン等の非接触型ICカードや交通系ICカード、一部の電子マネーを除きます

*世田谷区内在住・在学の小中学生は、土、日、祝日は無料になります

*各種割引については、手帳など証明できるものをお持ちください

*障害者手帳をお持ちの方で大学生以下は無料になります

*障害者手帳をお持ちの方の介添え者（1名まで）は無料になります

*企画展開催中は企画展のチケットの半券で、本展をご覧いただけます。

混雑状況によって入場制限させていただくことがあります

※11月21日(金)は65歳以上入場無料

※11月29日(土)・30(日)および2026年2月23日(月・祝)は入場無料

同時期開催企画展 世田谷文学館 開館30周年記念【ドナルド・キーン展 Seeds in the Heart】2026年11月15日(土)～2026年3月8日(日)

世田谷文学館学芸部広報担当 世田谷区南烏山1-10-10 webmaster@setabun.net 電話 03-5374-91111 F A X 03-5374-9120



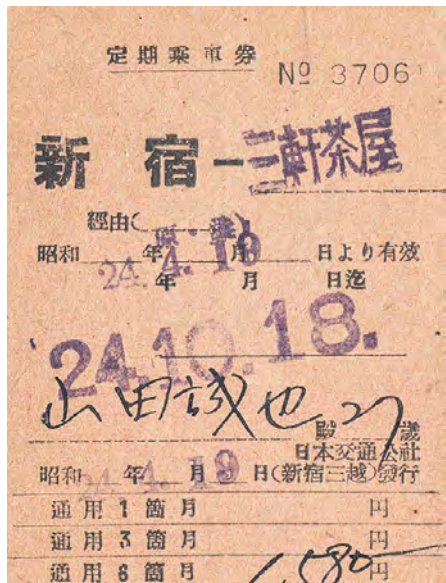
画像1 竹久夢二『出帆』挿し絵
世田谷文学館蔵
開通時は、世田谷線は一両編成だった



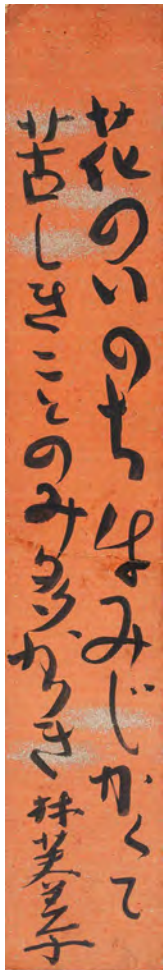
画像05 椎名麟三、下高井戸駅近くの線路脇にて



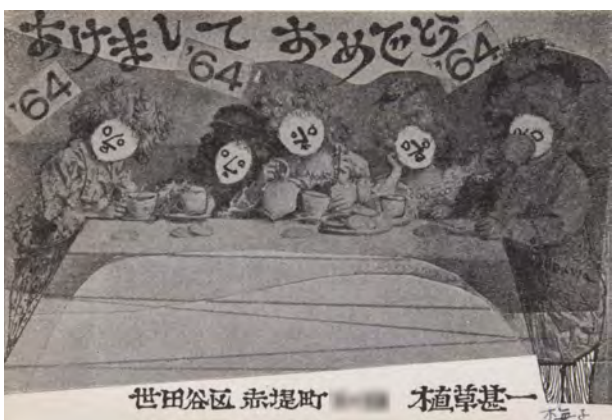
画像02 中野重治「第一章」原稿
世田谷文学館蔵
山下〜宮の坂には中野重治、徳永直、手塚英孝らプロレタリア作家が暮らした



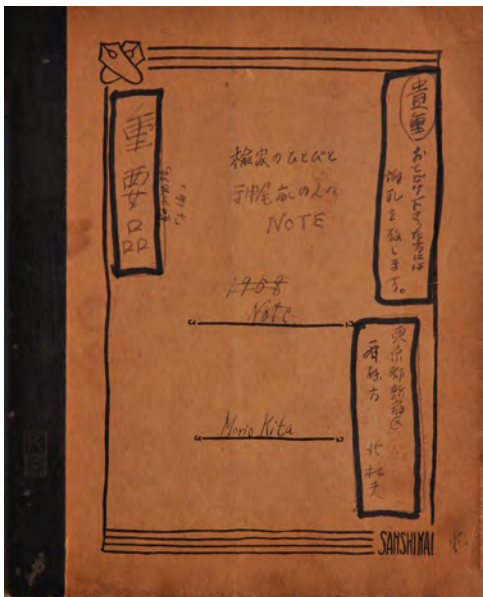
画像06 山田風太郎 三軒茶屋⇄新宿
定期券 世田谷文学館蔵
医学生だった風太郎は戦後まもなく疎開先から知人を頼って三軒茶屋に下宿する



画像03 林芙美子短冊
「花のいのちはみじかくて」
世田谷文学館蔵



画像04 植草甚一 年賀状(1964年)
世田谷文学館蔵
松原駅の近くに住んでいた時のもの



画像07 北杜夫「楡家の人びと」創作ノート
世田谷文学館蔵
作中の楡脳病院（斎藤茂吉が院長を務めた青山脳病院がモデル）は松原で再興する



画像Z ムットーニ《山月記》1995年
（中島敦「山月記」より）

ムットーニコレクション
（混雑時は観覧制限あり）
2025.10.18～2026.3.31

当館の開館以来、特色あるコレクションのひとつとなっている自動からくり人形作家・ムットーニの作品を上演します。

開館時間中毎時30分から上演
※ご入場にはコレクション展チケットが必要です

…上演作品…
《月世界探検記》
《蜘蛛の糸》
《題のない歌》
《山月記》



画像08 世田谷線運賃箱（個人蔵）



画像09 世田谷線行先方向板（個人蔵）



画像A 山下駅1969年
（写真提供：東急株式会社）



画像B 下高井戸駅1970年
（写真提供：東急株式会社）



画像C 三軒茶屋駅1969年
（写真提供：東急株式会社）



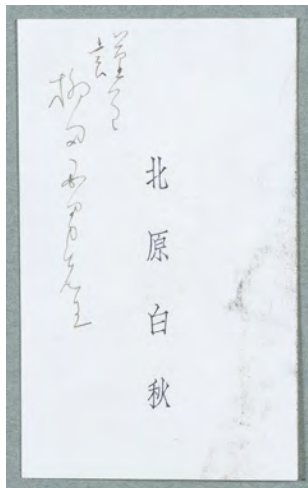
画像D まねき猫電車
（写真提供：東急株式会社）



画像E 2014世田谷線
（写真提供：東急株式会社）



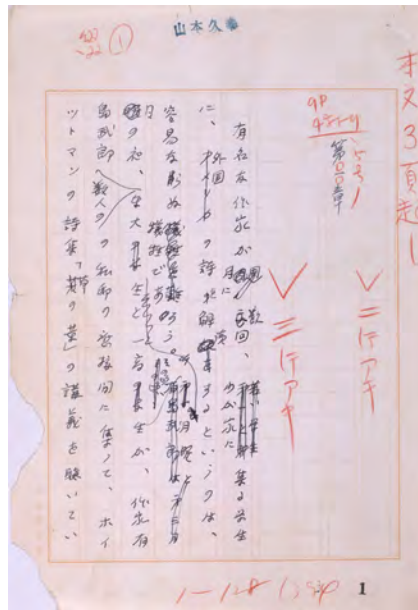
画像F 2014世田谷線
（写真提供：東急株式会社）



画像10 北原白秋名刺
世田谷文学館蔵



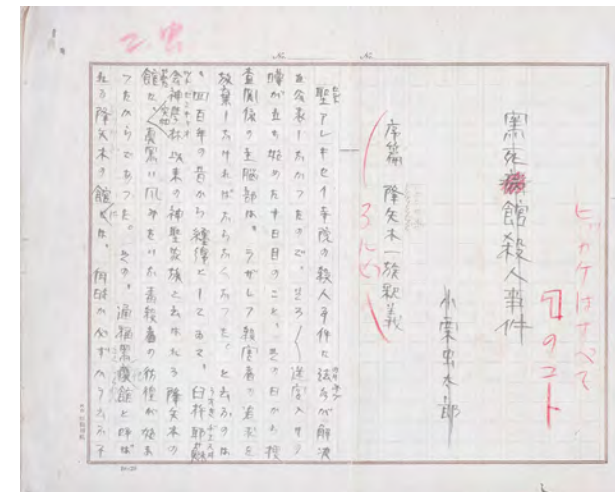
画像11 竹久夢二セノオ楽譜106番
『宵待草』（1918年）
セノオ音楽出版社
世田谷文学館蔵



画像12 芹沢光治良「人間の運命」原稿
世田谷文学館蔵



画像13 小栗虫太郎『黒死館殺人事件』
初版（1935年）
世田谷文学館蔵



画像14 小栗虫太郎「黒死館殺人事件」原稿
世田谷文学館蔵



画像15 「プロレタリア文学」
創刊号（1932）
世田谷文学館蔵



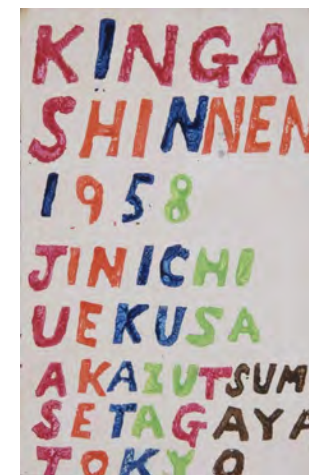
画像16 「プロレタリア芸術」
創刊号（1927年）
世田谷文学館蔵



画像17 林芙美子「放浪記」
（1930） 世田谷文学館蔵



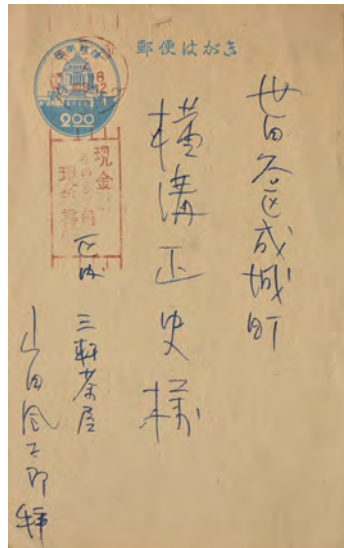
画像18 平林たい子『施療室にて』
（1928年文芸戦線社出版部）
世田谷文学館蔵



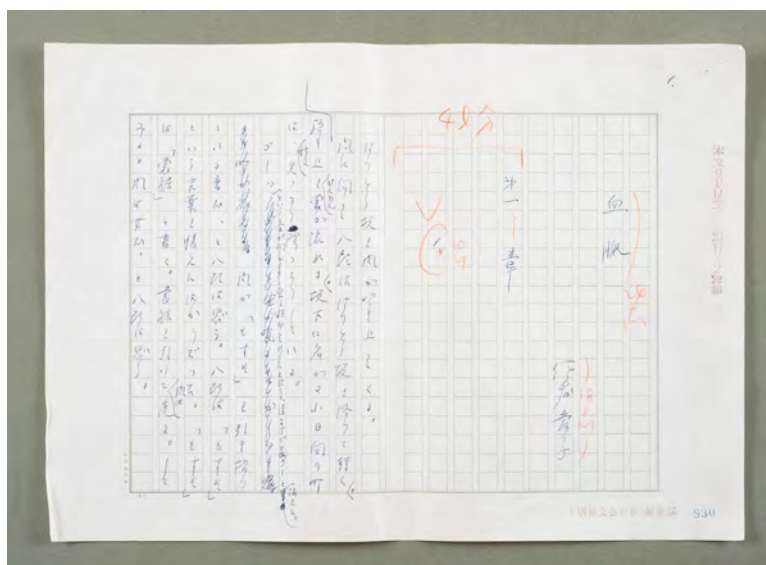
画像19 植草甚一年賀状（1958年）
世田谷文学館蔵



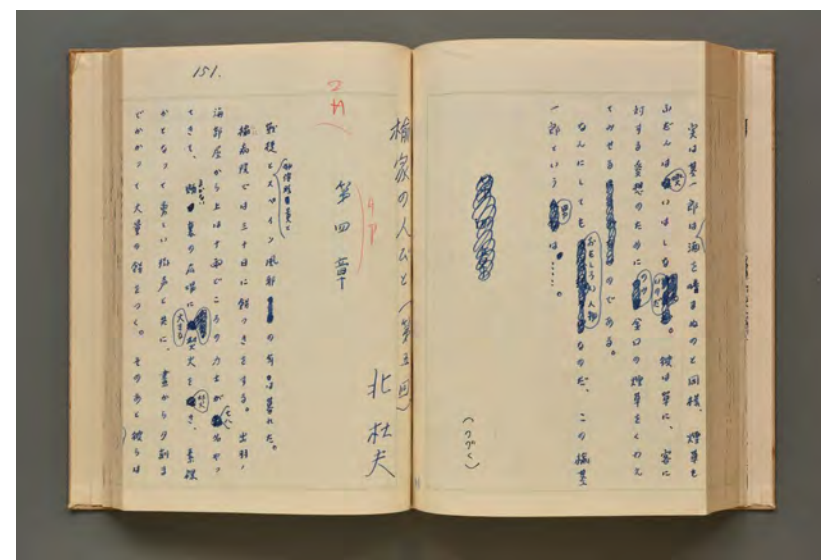
画像20 山田風太郎日記
世田谷文学館蔵



画像21 山田風太郎
横溝正史あてはがき
世田谷文学館蔵



画像22 佐藤愛子「血脈」原稿
世田谷文学館蔵



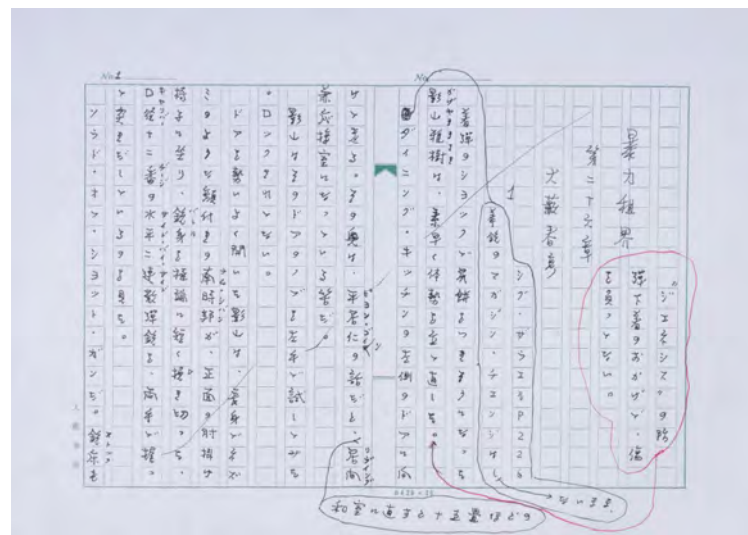
画像23 北杜夫「楡家の人びと」原稿
世田谷文学館蔵



画像24 北杜夫マブゼ共和国の国旗
世田谷文学館蔵



画像25 北杜夫マブゼ共和国紙幣と硬貨とビザ
世田谷文学館蔵



画像26 大藪春彦「暴力租界」原稿
世田谷文学館蔵



画像27 大藪春彦愛用のサングラス
世田谷文学館蔵